

【がん種】 **小細胞肺癌**  
【レジメン名】 CDDP+VP-16 ショートハイドレーション  
【登録番号】 100314  
【1コースの期間】 3週間  
【投与間隔調整規定】 -2日  
【総コース数】 進行・再発:4コースまで  
【催吐性リスク】 高度:シスプラチン、軽度:ラステット  
【抗がん剤の組織障害性】 イリタント(炎症性):ラステット(漏出時の冷却禁止)、シスプラチン  
【投与量に制限のある薬剤】 なし  
【主な有害事象】 白血球減少、好中球数減少、貧血、血小板数減少、クレアチニン増加、アレルギー反応、疲労、聴力障害、間質性肺炎、悪心、嘔吐、食欲不振、口腔粘膜炎症、味覚不全、下痢、便秘、脱毛

【必要な検査】 一般採血  
【根拠論文】 N Engl J Med 346:85-91, 2002. J Clin Oncol 24:2038-2043, 2006. J Clin Oncol 27:2530-2535, 2009. Ann Oncol 21:1810-1816, 2010. Jpn J Clin Oncol 2013;43:1105-09. Jpn J Clin Oncol 2013;43:1115-23. シスプラチン投与におけるショートハイドレーション法の手引き:2015年.  
【点滴の時間】 [day1~]8時間15分、[day2]3時間、[day3]3時間  
【その他】 対象患者: Ccr60mL/min以上、飲水指示に対して十分な理解力がある、心機能が保たれている(1時間あたり500mLの補液に耐える)、ECOG PS 0~1. 飲水は少量ずつ行う、アルコール不耐性でない患者。

Rp	薬剤名	量	投与方法	投与時間	投与日						
					1	2	3	4	...	21	
1	生理食塩液 250mL	1 B	メイン	キープ&フラッシュ	○						
2	飲水	約1 L	経口	シスプラチン投与終了までに	○						
3	ソルデム3A 500mL 硫酸Mg補正液 20mEq/20mL	1 B 0.4 A	側管	1時間 AM9:00~	○						
4	ソルデム1 500mL	1 B	側管	1時間	○						
5	生理食塩液 250mL プロイメド点滴静注用 150mg	1 B 1 V	側管	30分	○						
6	生理食塩液 100mL アロキシ静注 0.75mg デカドロン注射液 1.65mg/0.5mL デカドロン注射液 6.6mg/2mL	1 B 1 V 2 A 1 V	側管	30分	○						
7	5%ブドウ糖液 500mL ラステット注 調製後3時間以内に投与を終了する	1 B 100 mg/m2	側管	90分	○						
8	生理食塩液 100mL	1 B	側管	15分	○						
9	20%マンニトール注射液 300mL	0.5 V	側管	30分	○						
10	生理食塩液 250mL シスプラチン点滴静注「マルコ」	1 B 80 mg/m2	側管	1時間 遮光	○						
11	ソルデム3A 500mL	1 B	メイン	1時間	○						
12	飲水	最低1 L	経口	1日かけて飲水		○	○				
13	生理食塩液 250mL	1 B	メイン	キープ&フラッシュ	○	○					
14	生理食塩液 100mL デカドロン注射液 6.6mg/2mL	1 B 1 V	側管	30分		○					
15	生理食塩液 100mL デカドロン注射液 6.6mg/2mL	1 B 2 V	側管	30分			○				
16	5%ブドウ糖液 500mL ラステット注 調製後3時間以内に投与を終了する	1 B 100 mg/m2	側管	90分		○	○				
17	デカドロン錠 4mg	2 錠/回	内服	1日2回朝食後				○			

【CDDP+VP-16 ショートハイドレーション減量・休薬・中止基準】

N Engl J Med 2002 346:85-91.

減量	ラステット	シスプラチン
開始量	100mg/m <sup>2</sup>	80mg/m <sup>2</sup>
1段階	75%量	75%量

副作用	Grade	処置
血液毒性	4以上	ラステットとシスプラチンを1段階減量
間質性肺疾患	2以上	ラステットとシスプラチンを中止
腎障害	2	シスプラチンを1段階減量
	3以上	ラステットとシスプラチンを中止
肝機能障害	2	肝機能が基準値になるまで治療を休薬
	3以上	ラステットとシスプラチンを中止